

第 2 回日向市総合計画審議会 議事要旨

日 時	令和 2 年 9 月 25 日（金）①10：00～12：00、②13：30～15：30		
場 所	日向市商工会議所 1 階会議室		
出席者	審議会委員：①（午前の部）桑野副会長、三輪委員、尾池委員、西田委員、三浦委員、山元委員／②（午後の部）三輪会長、千代反田委員、山本委員、首藤委員、弓削委員、平田委員、国部委員、佐藤委員、岩田委員 日向市総合政策課（以下、市）：浜田課長、麻田課長補佐、松木主事、松岡主事 ランドブレイン（以下、LB）：山田、工藤、喜多	出席者確認印	
		発注者	受注者
内 容	■協議内容（①10:00～12:00） 1. 副会長（桑野副会長）あいさつ ○ 会長の指名により第 1 部は進行を務める。 ○ 第 2 部後半につながる意見等もいただきたい。 2. 協議 ○ 事務局：資料に沿って説明（資料 1、資料 2） ○ 桑野副会長：後期基本計画であり、令和 6 年度までになっている。シートの中で KPI や目標数値を挙げているが、総合戦略の目標値等と合っているのか。 ○ 事務局：令和 6 年度までの目標値としており、毎回報告をしている。検証もあわせて実施しており、まち・ひと・しごと創生会議の中で検証作業を行っているところである。 ○ 桑野副会長：2040 年問題や中長期的な視点も踏まえながら、計画期間である 4 年間で実施する内容や目標を検討するということである。 ○ 山元委員：例えば市民アンケート回答者の半分以上が高齢者である等であれば、市民全体のニーズとは言い難いと考えている。若者に選ばれるまちづくりを目指す場合に、アンケート回答者としてこういった層に回答いただいているか、分析する必要がある。 ○ 事務局：今回は総括の数値だけの提示であったが、バック資料として年齢層別にとりまとめを行っている。分析を行う場合は、年齢層別のニーズを把握し、それに応えることのできる施策立案につなげていきたい。 ○ 桑野副会長：より詳細な分析を進めるために必要な補足データ等があれば、事務局から提示をいただきたい。 ○ 三浦委員：区長連合会は、近隣の地区の状況であれば分かるものの、美々津や東郷等の遠方エリアの状況は把握できていなかった。最近では、特別委員会を設置し、各地区の課題や現状把握に努め、課題解決に向けた協議を進めている。消防団の負担金については、1 地区で負担しているところや複数の区で負担している所があり、小規模の地区については、負担金が多いところもある。 ○ 三浦委員：規模の小さい地区についても統合していく方向で検討・調整を進めているところである（最低 1 地区 100 世帯程度）。 ○ 三浦委員：区への未加入世帯と加入世帯の負担格差がある。未加入世帯は何も負担する必要もなく、未加入世帯も多くなっている状況である。負担金を依頼する形として呼掛け、区への加入者増を進めていきたい。 ○ 三輪委員：各種計画を実現していくための様々な事業を進めているところである。地域福祉計画に基づいた使命をしっかりと果たしていきたい。日本の高齢化率は過去		

最多を更新している状況である。日向市においても高齢者が年々増加している状況である。一方で合計特殊出生率は減少している状況である。P.35について、生産年齢人口が減少している状況にある。そうした点からも高齢者も働ける環境づくりを進めていくことが重要である。また、高齢者をいかに活用するかという視点も重要である。子育てしやすい環境づくりも重要であるが、増えていく高齢者の活用という視点が重要である。高齢者における後継者の育成も大切な視点である。高齢者クラブの活動の減少もみられるため、それに係る施策の検討も必要であると考えている。

- 三輪委員：地域包括ケアはこれまでは体制づくりであったが、これからは深化という方向になってくると思う。全世代型、全対象型（生活困窮さ、障がい者等）の両面から考えていくというのが地域包括ケアシステムのトレンドであるので、考え方は取り込んでいただきたい。
- 山元委員：人を育てるという視点で、子育てできる環境を施策に入れていただいているのはありがたい。しかし、母子世帯や単身世帯が増えてきていることに加え、親としか接することができない子どもが多くなってきている点は問題視している。親だけではなく、多くの人と接する機会づくりを進めていく必要がある。子どもには学ぶ力が重要であり、「人から学びとることができるか」という能力を高めていくことが重要である。子どもが社会に適応していく能力を高める環境づくり、施策の検討が重要であるため、施策等の中で検討してほしい。
- 山元委員：若者に選ばれるまちを掲げているが、日向市らしいメッセージが伝わってこないように感じる。日向市の若者が見たときに響く内容になっているかというところである。
- 桑野副会長：未来につなげる人づくりに掲げている施策につながる点であると考えている。フレーズについては現段階で案ということであるが、今後訴求力を高めるために、各委員からのご意見もいただきたい。
- 尾池委員：「さんびあ」では所属団体の高齢化が問題になっている。加えてコロナ禍で行事や研修が中止になっている状況である。3月までに残っている時間で頑張っていきたい。ひとり親世帯等の貧困世帯が多くなってきているため、ボランティアで子ども食堂に取り組んでいる。現在は、食事を作って提供することができないため、市内の飲食店に協力してもらい500円の弁当券を100食分配布している。今後は、長期休暇（夏休み）にも対応できるようにしたい。また、講座等を開きながら、SDGsやDV、貧困等について発信していきたい。
- 桑野副会長：子どもの貧困等の話については、施策に入ってくるのか。
- 事務局：市で策定している「子どもの未来応援推進計画」等も踏まえながら、施策の中にも盛り込んでいきたいと考えている。
- 三輪委員：貧困対策について、コロナ禍で貸し付け申請が例年10件程度であるところ現段階で250件、1億円の申請が来ている状況である。そうした点でいくと生活困窮者対策として、お金を給付するだけでなく生活環境の充実などの対策を考えていく必要がある。
- 西田委員：人を増やすという点では、一番効果的な施策は、子育て世帯の定住・移住を図ることだと感じている。関西から家族連れのUターン者が来ており、ミニトマト栽培のトレーニングをしている。来年の8月の収穫後は、独り立ちする予定である。現在は、移住場所としての土地・家を探している。Iターン、Uターン者の働く機会として農業もあり得るものと考えている。
- 西田委員：農業が活性化することで、生産力も高まり、かつ職業の一つになり得ると考えている。一方で、耕作放棄地が多くなっていることが課題である。耕作放棄地は条件不利地から順番に放棄地になっていっているのが現状である。今後は、条

件不利地を改善するような環境整備も必要である。

- 桑野副会長：日向市の基幹産業としての農業の活性化および、農業が持つ多面的な機能を活かしていくことが重要であると考えている。
- 山元委員：市民アンケートの結果を見ると、市民も日向市について真剣に考えている人も多かったのはよかった。また女性や障がい者の雇用の拡大についても触れられている点はよいと思う。日向市は男性社会、産業界が強いイメージがある。施策のターゲットの声をしっかりきくことのできる環境づくりは重要であると考えている。

■協議内容（②13:30～15:30）

1. 会長（三輪会長）あいさつ

- この4年間のグランドデザインを作る大事な会議であると認識している。
- どこの自治体でも課題になっている人口減少にどのように対応していくのかがポイントとなる。
- 日向市は多くのポテンシャルを有している。まずは港があるということ。物流拠点があるために企業等が集まってきている。また、素晴らしい波があり、サーフィンも盛んである。
- 東洋経済の住みよさランキングでも、県内トップ、九州でも県内唯一トップ 20(第12位)入りしている特徴を生かしていくべきだと考えている。
- 人の取り合いになっている中で、総花的にならない特徴ある目鼻立ちのある日向市にしていきたいと考えている。

2. 協議

- 事務局：資料に沿って説明（資料1、資料2）
- 三輪会長：少子化対策は20年以上前から言われているが、なぜフランスなど他で成功している国の政策等をマネしないのか疑問に思う。今後のポイントとしては女性かと思うが、女性は本日の会議でも事務局に一人だけである。施策の中でも盛り込んでいくべきかと思う。
- 国部委員：若者に選ばれる町はとても重要なキーワードである。何をやるのかが市民に分かりやすく伝わる形で計画づくりを進めていただきたい。最近は創業に関する意見交換を高校生やひむかbiz等と連携して実施している。日向市の経済界は仲が良いと感じるし、非常に前向きに捉えている方が多いと感じている。金融としてサポート及び先進事例の提供等を行っていきたい。
- 山本委員：日向はここ10年で観光が伸びてきていると実感している。一方で観光客は増加しているが、リピーターが少ない。滞在までの観光客は非常に少ない。現在、細島、美々津等の地区で観光や伝統文化に関わるまちづくり活動はとても頑張っている。リピーター増に向け、こうした活動団体と観光客のふれあいをつくり、人の顔が見える観光地づくりを進めていきたい。ひょっとこまつりのように地域の祭りは観光客にも参加してもらえる仕組みにしたい。単に観光スポットを見るだけではなく、地域と交流する接点、体験型観光を推進していきたい。
- 弓削委員：高齢者はどんどん増えている状況である。2045年に約40%近くになる。高齢者クラブは、市全体で自治区が100地区以上あるにも関わらず27クラブしかない。更に加入者が減少していることは懸念している。市と区が一体となって高齢者の実態について把握してもらいたい。高齢者が地域のために貢献できる活動等についても推進していくべきだと思う。
- 佐藤委員：自分の息子は関東の大学に進学をしており、地元に戻ってこいという話

もしているが、息子はなかなか前向きにならない。仕事がなく、給料が安いというのが理由である。計画を作っても絵にかいた餅になってしまうことが不安である。そうならないような計画にしていきたい。

- 岩田委員：資料を見て考えさせられる内容であった。高校生の娘と話していたところ、大学で市外に行くことはやむを得ないが、卒業後に戻ってくる魅力が重要だという話になった。高校生でもまちづくりに貢献したいという思いを持っていたり、課題を感じている子も少なくないため、意見を聞いてみる場もあってみてもよいのではないか。行政が方向性を作りながら、民間事業者との関係を作っていただきながら前向きに進めてほしい。
- 首藤委員：若者に選ばれる町の重点プロジェクトの施策については一本化してもよいのではないか。重点施策に市民一人ひとりがつながる市民協働のまちということを盛り込んでいただきたい。地域経営という視点も重要である。
- 千代反田委員：地域の二次救急医療は重要である。日向市は、人口 10 万人に対する医者数が 140 人となっており、全国平均 238 人に比べると低い状況にある。特に夜間の医師不足は深刻である。看護学校の生徒の多くも県外に就職してしまう。地元に残る人を大事に育てないといけない。
- 三輪会長：基本的な教育や子どもが地元に残れる施策は重要であると考えている。移住に対する問合せが多いと聞いている。物価が安い、通勤時間が短い等の点も日向市の住みよい点の一つではないかと考えている。
- 事務局：本日ご説明した方向性について、現在の柱立てて進めていきたいが問題はないか。
- 委員全員：問題ない。
- 今後のスケジュールとして、資料 1「5. スケジュール」に記載している通りである。10 月 29 日に第 3 回審議会を開催する予定である。

以上